

やませみ 通信

<http://www.okitsu-yamasemi.net/>



(やませみは興津川の清流のシンボルです)

手作り竈（かまど）で、温かなシシ鍋作り！



NO. 43

令和3年3月

〈令和2年度の活動〉

- 4月 市民の森づくり（中止）
- 6月 総会（紙上開催）
- 7月 「市民の森」下草刈り
- 7月 鮎釣り教室（中止）
- 8月 川の生きもの観察会（中止）
- 9月 興津川クリーン作戦（中止）
- 9月 嶺の子山荘の竈（かまど）づくり
- 11月 森林探検隊

目次

- 1 嶺の子山荘、野外竈（かまど）の製作
- 3 夏の市民の森づくりに参加して
- 5 「コロナ対策を万全にして森林探検隊を実施」
- 6 参加者が、考え、創る楽しいイベントに！
- 7 私たちの水道水、森と川のつながり
- 9 興津川非出資漁業組合の役割
- 11 令和2年度 森づくり県民大作戦「森づくり貢献証」授与しました！！

再生紙及びベジタブルインクを使用しています。

嶺の子山荘、野外竈（かまど）の製作

興津川保全市民会議 事業委員 奥寺利充

嶺の子山荘に昔からあった竈（かまど）

市民の森づくりのイベントベース地ともいべき嶺の子山荘の広場の一角に、いつからあったのか定かではないですが、大きな釜と鍋を乗せた竈（かまど）がありました。

現在では、興津川流域の山林にある孟宗竹は、周りの茶畑や植林地に侵入して、藪のごとく生い茂る厄介な存在となっています。しかし、その嫌われ者も春になるとタケノコを発生させることで面目躍如です。人々は、こぞって竹藪に入り、旬の美味の掘りおこしに熱中します。

前置きが長くなりましたが、実は、嶺の子の竈はタケノコの産地で有名な両河内のタケノコを掘り、その場で茹でるために作ったものです。しかし、その竈も石とブロックを積み上げただけの簡単な物で、年を経て鍋を置くにも不安定で、いつ崩れてもおかしくない状態でした。



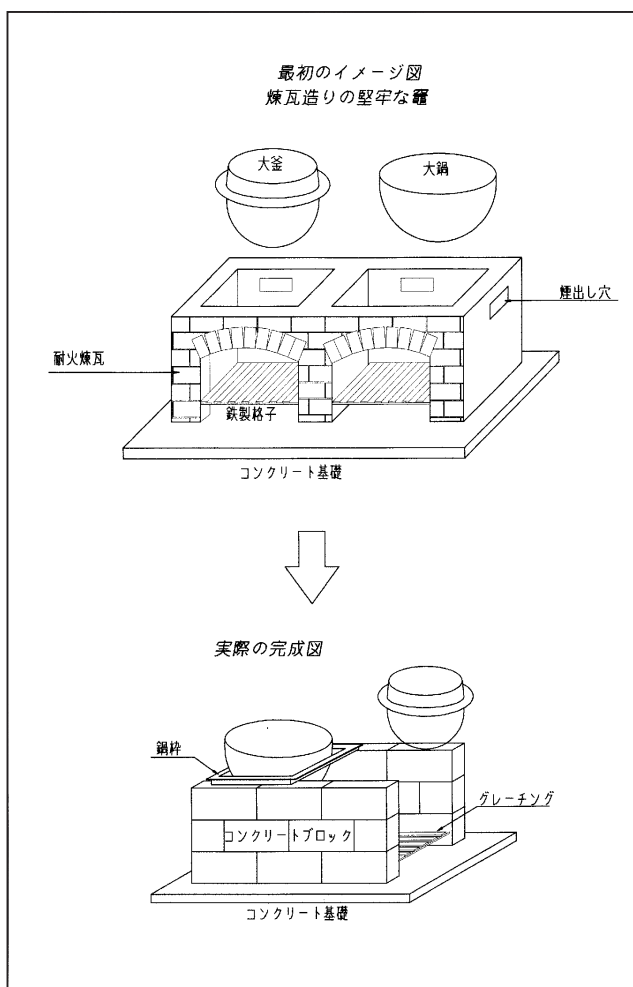
鉄の骨組みだけのこれまでの竈。

新たな竈作りの設計

そこで、いっそ新しい竈を作ろうということになり、製作図面を描いてみました。材料費は市民会議から出るとのことなので、立派なものにしたいと耐火煉瓦を使った本格的な竈を計画してみました。

図面も出来たので、さあ製作に取り掛かろうという段になって「煉瓦積みができる人がいるの？」という素朴な疑問に気づき唖然としました。プロの職人に作ってもらうのでは、市民会議の趣旨に反することなので、これは会員の手で作るものにしなければ意味がないことです。素人にも作れるようにコンクリートブロックをセメントで塗り重ねた土台に、鍋を乗せる鉄枠を付けるという、至ってシンプルな構造に設計を変更しました。

私事で恐縮ですが、図面書きを生業にしている新しいかまどの設計図



る自分としては、書き直しは慣れていることで苦にはならないです。

そして、出来上がった図面を見て、これならば何とか森林探検隊までには作れるだろうと納得するに至りました。

製作開始

8月のお盆過ぎ頃から現地での製作が始まりました。まずは材料を仕入れて運び上げました。最初は竈の基礎のコンクリート打ち。水平にならすのは簡単なようでけっこう面倒な作業でした。休日に二人で、ときには一人で嶺の子に通うこと5回。やっと完成が間近になりました。

会員参加で竈の仕上げ

そこで、9月19日に『秋のイベント』と銘打って会員を募集し、最後の仕上げ作業をやり、目出度く完成しました。周りのガラクタやゴミも片付け、すっきりと綺麗になり、竈広場も広くなったように感じます。まあ自分でも良く出

竈の周辺にあった竹を片付け、整地して、
広くなりました →

来たと満足しているのですが・・・

竈の「火入れ式」

11月21日は『森林探検隊』です。この日は新しい竈の「火入れ式」をしました。探検隊の恒例の名物となった猪肉汁を大鍋で作り、片方の大釜では石焼き芋づくり。竈で火を起こして海山川の幸を持ち寄り料理しました。野外での炊飯は楽しい限りです。

頑丈に出来た竈はこれから何年、何十年と使うことでしょう。

次にタケノコを茹でる日はもうすぐです。



汗をかいて創った新たなかまどには愛着が湧きます。

夏の市民の森づくりに参加して

静岡市立清水有度第一小学校 5年 奥山和希

下の駐車場から嶺の子山荘へ

山道に行く時におじさんが教えてくれた豆知識を「なるほど!」と思い、「自然はすごい!おもしろい!みんなにも教えてあげたい!」と思いました。

かまとぎと草刈り

草かりの前に、かまをといだら刃がすごくきれいになったのでびっくりしました。かまにさわる経験がなかったので、わくわくした気持ちになっていました。草かり場では、たくさんの草が生えていました。かるときのザクツという音がすごかったです。楽しくてたくさんやりましたが、あっという間に時間が過ぎてしまいました。汗が一杯出ましたが、それよりも草刈りに夢中になっていました。

竹を切った

お昼のあとは、木を切る様子を見学しました。竹を切るとき、とてもはく力がありました。このことから、「林業ってすごいなあ」と思い、林業に興味をもちました。

水てっぽう作り

お楽しみの水でっぽう作りでは、作り方を教わって、水を飛ばしあい、弟と遊びました。楽しかったです。



水てっぽうの作りを教わって、何本も作った。

今回の活動に参加して、林、森は手入れをしないとどうなるかなどを知りました。歩くのにはつかりましたが、自然の大切さを知ることができて、とてもいい経験になりました。また、参加したいと思います。

1年 奥山みつき

山の上に行くまではたいへんでしたが、けしきがとてもよかったです。みねの子山そうでは、モリアオガエルのたまごをはじめて見ました。オタマジャクシがいて、かわいかったです。みずでっぽうづくりもたのしかったです。



草を切りやすくするように、草刈り鎌を研ぎます。



植林地の草の成長は早く、植えた木を被います。



水鉄砲で遠くへ飛ばす競争をみんなでした。

会員（母親） 奥山 いずみ

夏の下草刈りに初参加

楽しいイベントをいろいろ開催していることを友人から聞き、会員になりました。そして、市民の森づくり、下草刈りに参加しました。

山道を歩いて嶺の子山荘へ

集合場所から嶺の子山荘まで、山道を登ること30～40分？実際はもっと短い時間だったかもしれませんが、暑さと日頃の運動不足もあって、長い道のりに感じました。休憩しながら進む中、山の緑や空気がとても気持ちよく感じられました。木陰に入るとすーっと涼しくなり、汗ばんだ体を冷ましてくれました。杉や桧の木々の間をぬけ、蟹の住む沢に寄り道。コロナウィルスの流行で鬱々とした気分をすっかり洗い流してくれたようです。

初めての鎌研

嶺の子山荘に着くと、鎌の研ぎ方を教わりました。息子たちにとっては初めての体験です。危なっかしい手つきで鎌を研ぐ息子に手も口も出さずにいられませんでした。

いよいよ下草刈りの場所へ移動です。皆で手分けして草を刈っていきます。手を掛けてあげなければ山は荒れてしまいます。林業の方、役員の方々が継続的に手入れをしてくれているお

かげで荒れずに済んでいるとのこと、ありがたく思います。息子も汗だくになりながら大変さを実感していました。とても良い体験になりました。ありがとうございました。

お弁当を食べたあとは、水鉄砲作りです。手際が悪い私に名人たちが手伝ってくれて息子二人分の水鉄砲ができました。対戦している子どもたちはとても楽しそうで、材料が余っているのをいいことに、私の分まで作らせてもらいました。



ノコギリを使って、親子で竹を切りました。

お友達と一緒に参加したので、大いに楽しめ、ストレス発散にもなりました。次は、春の植林に参加してみたいです。その時は、よろしくお願いします。



集合写真の時は、マスクを外して撮りました。頑張った達成感でみんな笑顔です。

「コロナ対策を万全にして森林探検隊を実施」

興津川保全市民会議 事務局 西野真理恵

突然の新型コロナウイルスに活動中止

昨年度最終事業の「森林探検隊」を無事終えて、さあ！今年度も皆さんと楽しんでいこう！と思っている矢先に、誰もが想像もしていなかった状況になりました。

我が国のみならず世界中が新型コロナウイルスに翻弄され、先が見えない不安な状況が故に、暗いニュースも増えました。

当会議も、このような状況下で今後どのように活動を行えばよいのか話し合いをするものの、やはり中止にせざるを得ないイベントがほとんどでした。

森林探検隊へようこそ

しかし、自然はいつどんな時も悠然と構えています。管理や保護もし続ける必要があります。参加者の皆さんと関係者の健康面を第一に考え、社会状況をも鑑みながら、どのようにしたら安全、安心な活動が出来るか、事業委員の皆さんと前向きな意見を出しあい、検討を続けてきました。

その結果、ウィルス対策を万全にし、「夏の市民の森づくり」に続き「森林探検隊」も無事実施することができました。長引く休校にストレスが溜まったり、行事がことごとく中止になってしまった子どもたち。マスク着用がお約束なので、思いっきり！！とはいきませんが、今回は特に、親子でリフレッシュして欲しいと強く願っていました。

植物や山のお話と木の伐採に感動

そして、とても嬉しいことに、森林インストラクターの中村俊康氏と、樵（きこり）の堀出斉翠氏がゲストで来てくださいました。探検出発前に、中村氏による植物や山の話。とても解りやすく面白いお話に、大人も子どもも自然と笑みがこぼれます。歩きながらも色々説明してくださり、参加者の皆さんも楽しそうに質問をしていました。

アンケートでも「感動しました！」「鳥肌が立ちました！」の聲が沢山寄せられる“木の伐採”。堀出氏の指導の元、ふたりのお父さんがチェーンソー体験をしました。最終段階に入り、みんな



植物や山の話に熱心に聞き、みんな興味津々。



大きな木がドドーンと切り倒された迫力にびっくり。

参加者が、考え、創る楽しいイベントにしましょう！

なで静かに堀出氏と木を見守ります。轟音と共に目的の場所に倒れる木に、一瞬空気が張り詰め、その後に皆さんの拍手喝采が沸き起こります。毎回思うのですが、不思議とこの“木の伐採”から参加者さん同士に交流が生まれている気がします。感動を共有する大切さを改めて感じる時でもあります。

会員さんに準備の協力をお願い

森林探検隊では、参加者の皆さんにシシ鍋を振る舞うのですが、今まではこちらの準備は全て事業委員会のスタッフで行っていました。

今回は新しい試みとして、いつも参加してくださる個人会員の落合広美さんとお嬢様の輝衣



さんに、シシ鍋のお手伝いをお願いしました。すぐに快諾してくださり、当日はお二人の活躍で大変助かりました。

また、「いつもの活動を違う角度から見る事ができて楽しかったです。」「調理の前に薪割から始める事ができて楽しかったです。」と嬉しいお言葉もアンケートに書いてくださいました。

下山中には、同じくよく参加して下さるお父

様から、竹工作の面白い案を頂いたりしました。

参加者が創るイベントに

イベントの間に、私はなるべく多くの参加者さんと話をするよう心掛けています。そこで気が付いたことは、「当会議のスタッフと一緒にイベントを作りあげたい」という気持ちを持っている参加者さんが多くいるということです。森の整備や管理、またそこで学ぶことを、もっと参加者の方達と共有していこうと思っています。子どもたちには、自然の大切さはもちろん、仲間を大切にしリーダーシップ資質を身に付けていけるようなプログラムを提供できるようにしていきたいです。

これから

新しい生活様式の中で、「変えていかなくてはいけないこと」の判断が私たちに委ねられているように思います。まだまだ迷いや不安がある世の中だからこそ皆で考えながら協力して前進したいとも思います。当会議も、沢山の方々のお力添えのもと事業を行っています。

改めて参加者の方々、事業委員及び関係者の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

落合さん親子が、シシ鍋作りを手伝ってくれて、とてもおいしく出来ました。



私たちの水道水、森と川のつながり

興津川保全市民会議 静岡市役所 環境創造課 伊藤 晃伸

命の水を蓄える緑のダム

興津川は清水区民の貴重な水道水源となっている河川であり、その水は「緑のダム」とも呼ばれる豊かな森林によって支えられています。森林は、雨水を吸収して浄化するとともに、河川への流量を調整したり、土砂の流出を低減する機能を持っています。

森林の保全活動

興津川保全市民会議では、「清流」興津川を守るために、森林の保全に関する活動も行っており、植樹や下草刈りなどの地拵えを行う「市民の森づくり」など、森林の役割を楽しみながら学ぶイベントを実施しています。

森林の機能、役割

森林には、洪水や渇水を緩和し土砂崩れを防ぐほか、市民にとっても安らぎの場となるなど、私たちの暮らしを支える大切な役割があります。その中でも代表的な役割を紹介します。

①水源かん養機能

適切に管理された森林は、降った雨水を地中にため、ゆっくりと時間をかけて川に流出させます。この働きがあることで、洪水や渇水を緩和し、安定した水の循環を保つことができます。

②土砂流出防止機能

健全な森林では、深く張った根が土の移動を抑え、土砂崩れが起きにくくなります。また、森林の中には、落ち葉や枯れた枝が積もっているため、雨によって表面の土が流れることがなく、川に土砂が流れ込むことを防いでいます。

③水質浄化機能

森林に降った雨は、空気中のちりが付着しています。雨がゆっくりと地中にしみ込んでいくことで汚れが取り除かれ、水をきれいにしています。

こうした森林の働きによって、興津川をはじめとした水道水源の河川が美しく保たれ、おいしい水道水となり、私たちのもとへ届けられているのです。

静岡市の水道水の仕組み

ここでは、日々の暮らしに欠かせない静岡市の水道水の仕組みについても紹介します。

水道水源は、地下水と表流水から

河川や地下水から水を取る工程を「取水」と言い、静岡市の水道水源は次のとおりとなっています。

- 葵区・駿河区は安倍川の伏流水と地下水
- 清水区清水地区（旧清水市）は興津川の表流水と地下水
- 清水区蒲原地区（旧蒲原町）は富士川の地下水ほか
- 清水区由比地区（旧由比町）は由比川の表流水ほか

それぞれの地域によって水道水源となっている川やその取水方法が異なります。

伏流水とは、河川の河床の下に砂れき層などを流れる水のことです。地中の伏流水が流れる層に多くの穴が開いた水道管を埋設し、その穴から水を集めています。安倍川ではこの伏流水から多くの水道水源を取水していることが知られています。

地下水の取水は、その多くが50 m以上の深井戸から取水し、安定した水質と水量を誇ります。

表流水とは、流れている川の表面の水のことです。興津川では取水量のほとんどが表流水の取水によるものです。そのため、川の水量の変化が取水量に影響を及ぼすこともあります。取水された水は浄水場でろ過され、滅菌された後、各家庭に届けられています。

ここまで水道水源についてご紹介しましたが、次は水道水についてご紹介します。



水道水について

静岡に引っ越してきた方や旅行で静岡に立ち寄った方から、「静岡の水はおいしい」といった感想を聞いたことはありませんか。私たちが日頃から飲んでいる静岡市の水道水をおいしいと感じるのはなぜでしょうか。人が水をおいしいと感じるには、次のようないくつかの条件があると言われてます。

①蒸発残留物（水を蒸発させた後に残るもので、主成分はミネラル分）

適度に含まれると、コクのあるまろやかな味になります。多くなると、苦みや渋みを感じることがあります。

②硬度（水に含まれるカルシウムやマグネシウムなどの量）

硬度が低い水は、クセがなく飲みやすいとされ、逆に硬度が高いと苦みを感じる人もいます。日本の水は一般的に硬度が低く、「軟水」と呼ばれています。

③残留塩素（水道水の中に残っている消毒のための塩素）

塩素は水道水の衛生上の措置として添加され、濃度が高いと水にカルキ臭を感じることがあります。

人が水をおいしいと感じる条件を数値で示した「おいしい水の要件（厚生労働省）」と比べてみても、静岡市の水道水はこれらの要件を満たすことから、全国的にも「おいしい水」を私たちは飲むことができているのです。

雨量と川を流れる水量

私がこの原稿を書いている令和3年2月時点では、前年10月からの少雨の影響により、静岡市の主な水源で渇水が起こっています。安倍川では瀬切れが発生し、興津川でも水量が大きく減少しています。興津川承元寺での年平均の河川流量は537,000 m³ですが、令和2年2月では、157,000 m³まで減少し、川を見ると明らかに水量が少ないことが分かります。必要な水道水は確保できるものの、市民一人ひとりの節水の心がけがより重要になっています。

美しい興津川を後世まで残しましょう

コロナ禍の現在、日々の手洗いうがいが必要ですが、蛇口をこまめに閉めて使うなどの小さな積み重ねによって、興津川をはじめとする貴重な水道水源の保全につながります。

興津川保全市民会議の活動を通して、私たちの水道水、森と川のつながりをより多くの方に伝え、美しい興津川を後世まで残したいと考えています。



豊かに水が流れる夏の八幡橋上流（2016年8月）



雨が少ない冬の八幡橋上流（2020年12月）

興津川非出資漁業組合の役割

興津川保全市民会議 事業委員興津川非出資漁業組合 伏見 公年

昔から興津川に棲む清流の女王と呼ばれるアユを、釣りを通して見守ってきた「興津川非出資業行組合」を紹介します。

1. 漁協設立の経緯

昭和 23 年に水産業協同組合法（漁業法）が施行され、翌 24 年に「興津川非出資漁業組合」として設立されました。

当漁協は、漁業権として、「共同漁業」の知事免許を受けています。これは、採貝採藻など、漁場を地元漁民が共同で利用して漁業を営む権利で、漁場の区割り、漁業種類、漁業時期等を定めています。

令和 3 年で通常総会 70 回目を迎える、長い歴史を持つ組合となっています。



興津川中流の雨乞いにある漁業組合の事務所

2. 清流興津川の役割

二級河川興津川は、静岡市（旧清水市）の飲料水として取水量 55,000 m³/日 や農業用水などを支える、水量豊かな水源として利用されています。



承元寺の水道水取水口

流域は、清流を象徴する野鳥カワセミ・やませみ、アユや溪流釣りの人気スポットとしても知られています。毎年東日本で最も早い時期（例年 5 月 20 日）にアユ釣りが解禁されています。釣りのほかにも、夏はキャンプや水遊びをする多くの人たちの憩いの場として親しまれています。

また、地元の小河内小学校や両河内中学校は、「興津川を知りたい」ということで、漁協で開催する勉強会や体験放流にも参加してくれています。



地元の小学校、中学校の生徒の体験放流。

3. 興津川のアユ釣り漁法

①友釣り

アユは水中の珪藻類を主食として、10 日で約 1 cm 成長します。アユは、縄張りをつくる習性が非常に強く、自分の縄張りを持ったアユは、その勢力圏に侵入しようとする他のアユに体当たりして追い払う気性の持ち主です。友釣りはアユの特性を利用した釣法です。

②ドブ釣り

淵の多い興津川での人気の漁法です。専用の毛鉤（疑依針）を使用して淵などの深み・トロ場等が最適な釣り場となります。しかし、川幅が狭いため危険とされるルアーやフライは禁止となっています。



30年前の解禁日の賑わい（ドブ釣り）

③掛釣り

餌をつけない空バリで魚の体を引っ掛けることによって釣る方法です。アユのコログシ釣りなど、場所限定・期間限定等の規定があります。

4. 組合の活動

組合は、1年を通して漁場管理、魚の繁殖保護、おとり販売等を主体となって活動しています。

①漁場管理

興津川は、支線の中河内川、小河内川と共に、「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル河川」となっています。これは、魚などの遡上を妨げる堰の魚道改良や災害復旧等の工事に対して、いろいろな生き物が住みやすい川にしようと、県や市と協力してやさしい川づくりの環境活動を行っています。

また、漁場管理監視員が配置されています。監視員は違法な漁法での遊漁や適切に遊漁証を購入して着用しているか等、遊漁者がルールやマナーを遵守しているか監視しています。違法な場合は、その場で指導・是正を求めることが役目となっています。

②魚の繁殖保護

興津川は、水産資源の保護培養活動として、毎年アユ 22,000 尾・ウナギ 2,500 尾・ニジマス 10,000 尾・もくず蟹 30 kg等を放流しています。しかし、ここ数年天然アユの遡上が減少しているため、友釣りの愛好家からクレームが出ています。放流のアユが人工産のため、縄張りアユよりも仲良しアユが増加していることが大きな理由です。興津川の漁法も過渡期に入っているのかもしれません。

③おとり販売

「おとり」とは、友釣り漁法のおとり用アユのことです。遊漁者は、おとり取扱店でおとりアユを購入して友釣りを楽しみます。漁協では、定期的に元気なおとりアユをおとり取扱店に販売しています。毎年、25,000～30,000尾程度のおとりアユが興津川で活躍しています。



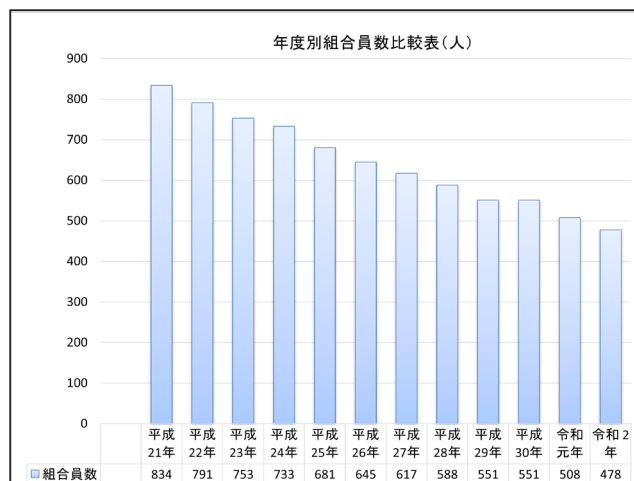
階段状の堰の流れが美しい和田島カスケード魚道工

5. 今後の取り組み

興津川漁協は、興津川の水量減少、河口の堆積砂による閉塞、アユの遡上減少、遊漁者数の減少、組合員の高齢化及び減少等、様々な課題を抱えています。これらを少しでも改善するために「興津川再生プロジェクト」の立上げ計画が進められています。組合は、「清流興津川」を未来に残すために活動を続けていきます。



渇水期は、雨不足で河口が堆積砂で閉塞する



漁業組合員の減少と高齢化対策が必要となっている

令和2年度 森づくり県民大作戦「森づくり貢献証」授与しました

令和年度 森づくり県民大作戦 「森づくり貢献証」を授与

興津川保全市民会議では、これまで、「市民の森づくり」「森林探検隊」などの活動により、会員及び一般参加者と共に、興津川流域の森林の保全活動に取り組んできました。

特に、興津川を流れる水は、清水区民の水道水源であり、「命の水」として、いつまでも清く、絶えることなく流れる川として保つためには、何よりも、その流域にある「森林」が健全な状態を保ち、自然のダムとして機能することが大切であることを訴えてきました。

今回は、タイプ「エンジョイ」という貢献証ですので、これからも森林の中で楽しく活動しながら森の大切さを学ぶ活動を続けていきましょう。



興津川の活動に協力してくれる方、気楽に連絡してください！

活動は、この「やませみ通信」に紹介しているような内容です。

竹の子鍋、しし鍋、流しそうめんづくり、山での植林、川の学習や遊びの活動支援、アユ釣りや山仕事が好きの方など、特技のある方、ない方大歓迎です。

●会社をリタイア（現在、今後）して、何か地域活動をしてみたいが、何ができるかわからない方など、是非一度、お試しで参加してみてください。

●年齢、男女などは問いません。

興津川保全市民会議の会員になり、「命の水」を守るため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000 円 / 年
個人会員 1,000 円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集以外 地域デザイン研究所（望月）
発行日 令和3年3月

興津川保全市民会議事務局

（静岡市環境創造課内）

TEL. 054-221-1319

FAX. 054-221-1492

〒420-8602 静岡市葵区追手町 5-1



ホームページもご覧ください <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・

令和3年は、新型コロナウイルスの世界的流行に伴い、当市民会議もその影響で多くの企画を中止せざるをえませんでした。その中でも、コロナ対策をした上で、出来ることを実施してきた1年間でした。